

『子育てパパとママのお泊り井戸端会議』報告書

～一泊二日のリフレッシュプロジェクト～

【趣 旨】

親子での多様な体験活動の機会を提供することや「親の力」を学びあうことにより、幼児期における体験活動の必要性を保護者に理解してもらう。また、核家族等により孤立しがちな親が気軽に相談しあえるネットワークを構築する。さらには、施設を利用している青少年との交流を図ることで、将来の親となる若者に親子の絆や子育ての素晴らしさを伝えていく。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【協 力】 江田島市子育て支援センター

【期 日】 ①平成23年7月9日（土）～10日（日）
②平成23年12月23日（金・祝）～24日（土）

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【参加者数】 ①11家族 38人
② 8家族 29人




【日 程】



①平成23年7月9日（土）～10日（日）

7 / 9 (土)	14:00	集合・受付（玄関ホール）	
	14:15～	施設利用案内	
	15:00～	はじめまして！アイスブレイク～あたたかい雰囲気づくり～	
	16:00～	「親子で作ろう三角おにぎり！ わいわい食べよう流しそうめん！！」	
	18:30～	入浴	
	19:30～ 21:00～	「パパとママの井戸端会議」(もちろん、お酒も飲めます) 就寝準備	

7 / 10 (日)	6:00	起床	
	6:20～	「パパと早起きして、カスタムシャクワガタを探しにレッツゴー！」	
	7:10～	朝のつどい、清掃	
	7:50～	朝食（バイキング）	
	9:00～	パパ：「カッターに乗って魚釣り 大物を狙え！」	
	9:30～	ママと子どもたち：「フライベイトビーチでカヌー体験や砂遊び！」	
	12:00～	昼食（バイキング）	
	13:30～	退所準備	
	14:00～	また、逢えるといいね！～ふりかえり～	
	14:50	解散	

②平成23年12月23日（金・祝）～24日（土）

12/23 (金・祝)	13:45	集合・受付（玄関ホール）	
	14:15～	施設利用案内 はじめまして！アイズフレイク～あたたかい雰囲気づくり～	
	15:00～	「親子でペッタン！お餅つき！」	
	18:30～	入浴 餅(あんこ, 砂糖醤油, きなこ)豚汁	
	19:30～	「パパとママの井戸端会議」(もちろん、お酒も飲めます)	
21:00～	就寝準備		

12/24 (土)	6:40	起床	 
	7:10～	朝のつどい、清掃	
	7:50～	朝食（バイキング）	
	9:00～	からだを動かして遊ぼう！！(レクリエーション)	
	9:45～	「オリジナルクリスマスキャンドル作りをしよう！」 「缶バッジを作ろう！」	
	12:00～	昼食（バイキング）	
	13:30～	退所準備	
	14:00～	また、逢えるといいね！～ふりかえり～	
	14:50	解散	

【企画・運営のポイント】

事業の趣旨・テーマに迫ったり、県内の教育委員会や公立青少年教育施設などへ普及を図ったりするための運営のポイントは、次に挙げるものである。

①親子で体験できるプログラムの設定

流しそうめんや餅つきのように季節を感じることができるものや、カヌーや釣りのように施設の特徴を生かしたものなど、親子で一緒に活動できるプログラムを設定した。



②情報交換の場、井戸端会議の実施

親がリフレッシュできるよう、そして、ネットワークを作ることができるように井戸端会議を実施した。その際、親同士が安心して話ができるよう、親の目の届く場所で、法人ボランティアが子どもたちに読み聞かせをしたり、折り紙をしたりした。



③他施設の職員が運営補助として関わる

広島県立福山少年自然の家の職員が、実際に事業を体験するとともに、当該施設で実施する際の参考にできるように、運営補助として参加する機会を設けた。

④青少年に対する親への準備教育（施設を活用する学生との交流プログラムの実施）

プログラムの中に、法人ボランティアが多く所属するボランティアグループ『カッターズ』が中心になって企画・運営する『カッターズキャンプ』の一部に、当事業の参加者が参加する機会を設けた。一緒に歌を歌ったりゲームをしたりすることを通して、将来親となる学生たちに親子の絆の素晴らしさを伝えるようにした。

その他の法人ボランティアにも、絵本の読み聞かせをしたり体験活動時の補助をしたりすることを通して、子どもや親と関わることで、親子の絆の素晴らしさを感じてもらえるようにした。

【成果と普及】

- ・「プログラムを通じてゆったりと時間を過ごすことができた。」という意見が多くあった。そして、「体験活動の大切さを改めて感じた。」という感想もあり、事業への参加者の満足度も高かった。また、「1泊2日では短い。」という意見や、「回数を多くしてほしい。」という意見も聞かれた。
- ・事業へ参加した法人ボランティアは、親子のふれあいを身近に見て、自分も大切に育てられてきたんだということへの感謝の気持ちと、自分も早く親になりたいという思いを語っていた。
- ・広島県立福山少年自然の家の2名の職員を派遣していただき運営補助をしていただきながら、事業を実際に体験していただいた。2名の職員は、参加者として、また、施設職員の立場としても、「参加者同士の距離を縮めるための職員の関わり方や施設の特徴を生かした活動を取り入れることの大切さを学ぶことができた。」など感想を話され、貴重な意見交換をすることができ、普及へ向けて一歩前進することができた。

【来年度に向けて】

- ・この事業の成果を、県内の公立青少年教育施設において活かせるよう、共同企画・共同運営で実施する体制を整える。